

# 子どもが元気になる子育て！

## 野口克海さんを迎えて講演会を開催

町では、昨年度に引き続き大阪教育大学監事の野口克海さんを迎えて、8月21日に町文化センターで教育講演会を開きました。

今年は、より多くの保護者に話を聞いてほしいという思いから、小中学校のPTAと共催で開催。野口さんは「大人が子どもの発達段階の特質を踏まえ、愛情をもって子どもに接していくことが大事」と自らの体験から話しました。200人を超える参加者は、その情熱ある話に感動し、熱心に聞き入りました。

野口さんには、今年度から日野町教育行政顧問をお願いし、今後も継続して指導いただきます。



参加者に熱い思いを伝える野口克海さん

講演の中で、野口さんが参加者に熱く伝えた内容について、主なことを紹介します。

### 安定根（あんでいこん）

乳幼児期にぎゅっと抱きしめられ、しっかりとかわいがられた子どもたちは「自分は大事にされている」という実感が体に染みついていきます。これが安定根です。虐待を受けたりテレビに育てられた子どもの安定根はとて小小さく、大きくなつて不登校や暴力に向き合った時に立ち直るのに時間がかかります。今からでも遅くありません。目と目を合わせ、スキンシップを図りながら愛のシャワーをたっぷり注いでいきましょう。

### しつけ

幼児期はしつけの時期です。し続けるから「しつけ」と言います。しつけの原点は「あいさつ」です。昔はおじいちゃんやおばあちゃん、兄弟姉妹、地域のおじさんやおばさんなどの子育て応援団がたくさんいました。核家族が進んだ今は、お母さんが一人で子育てを頑張っている家庭が多いのではないのでしょうか。みんなが力を合わせ

て、しつけや子育てに取り組んでいきましょう。

### やっつけらん

幼児期の後期は第一反抗期で、親離れの時期です。子どもからちよつと離れて「やっつけらん」と見守りましょう。衣服の着脱など、子どもが自分でできるのに親がやっつけてしまうのは愛のシャワーではありません。過保護はやめましょう。

また、子ども同士での遊びが大事で、バツタやセミなど命あるものとの遊びも大事です。子どもは、子ども同士で群れて遊ぶ中で人間関係を学んだり、命あるものとの遊びから命を大切に思う心が育っていくのです。

### 自己肯定感

学童期は学びの時期で、小学校低学年の子どもは学ぶことが喜びです。しかし、高学年になるにつれて勉強嫌いになる子どもが増えていきます。何かに自信を持っている子どもは頑張れるのですが、自信がないとそうはいきません。

今、自己肯定感が低下している子どもたちが増えています。子どもが持っている良さを、大人がしっかりと褒めてあげましょう。「やさしいね」「頼りにしているよ」「大事に思っているよ」など、誰かとの比較ではなく、

講師の体験談に聞き入る参加者



その子自身の良さを褒めてあげましょう。

### 同行二人（どうぎょうにん）

思春期は人生の嵐の時代です。身体は大人でも、心は子どもそのままのアンバランスな時期です。個人差もありますが、最近では思春期が早く、10歳ぐらいから始まり遅くまで続く傾向があります。

そして、思春期は第二反抗期です。「〇〇はダメ」「〇〇しなさい」など、頭ごなしや命令形の話し方では伝わりません。空海（弘法大師）の言葉に「同行二人」があります。子どもと親（教師）が同じ方向を向いて人生の嵐を乗り越えていく関わり方が大事なのです。

